



8月



夏の夜空に大輪の花が咲く季節となりました。8月1日は「花火の日」。江戸時代、隅田川で悪疫退散等のために花火を打ち上げたのが、日本の花火の始まりと言われ、その後花火に関する出来事がこの日に重なったことから制定されたそうです。暑さはこれからが本番ですが、熱中症等に気を付けて、夏の風物詩を楽しみたいですね。



infomation

- ・6月決算法人の確定申告
- ・12月決算法人の中間（予定）申告

- ・個人事業税の第1期分納付
- ・個人道府県民税・市町村民税の第2期分納付



企業経営や税務会計、業種ごとに役立つ情報を紹介していきます

経営虎の巻

第127回 コスト上昇時代における 企業経営の要諦

近年、世界的な経済変動や供給網の混乱により、原材料費・人件費・物流費・エネルギーコストなど、あらゆる領域でコスト上昇が続いています。中小企業にとっては従来の価格設定や業務体制の見直しが急務となり、収益構造の再設計が避けられない状況です。

こうした時代において重要なのは、「守り」だけでなく「攻め」の視点を持った経営です。コストカットに偏るのではなく、限られた資源の中で最大限の価値を生み出す工夫が求められます。たとえば、製品やサービスの品質へのこだわりや提供方法の工夫によって、顧客が価格以上の価値を感じられるような仕掛けが必要です。

また、社内の業務プロセスに目を向ければ、自動化や外部リソースの活用、人的資源の再配置などによる生産性向上も可能です。ITツールやデジタル技術の導入は、単なる業務効率化にとどまらず、企業の競争力強化の手段となります。

さらに、「コスト意識の文化」を社内に浸透させることも欠かせません。全社員がコスト構造とその影響を理解し、自部門での予算管理を主体的に行えるようになることで、自律的な経営体質が育まれます。

コスト上昇を単なる外的要因として捉えるのではなく、企業の体質改善と革新の契機と捉えること。これこそが、この時代において生き残り、成長を続けるための鍵といえるでしょう。

解体新書

新スタッフの自己紹介と上司の激励メッセージです

一木 千愛（いちぎ ちなり）

- 部署 医療部
- 誕生日 7月24日
- 職歴 新卒
- 趣味・特技 映画鑑賞・絵を描くこと
- プチ自慢 最近、近所にいる柴犬に懐かれました



あいさつ

今年4月から入社しました。この業種のなかでも社会人としても未経験ですが、皆様からのご指導をいただきながらこれから日々努力して参ります。よろしくお願いいたします。

上司からのメッセージ

新卒での入社ということもありすべてが初めての経験ではありますが、一つひとつ着実に知識を習得し日々成長を重ねています。様々なことに積極的に挑戦しながら、周囲から信頼される職員へと大きく成長してくれることを期待しています。

行列ができる保険相談所

法人保険の注意点

法人保険を導入する際には、企業のリスクマネジメントや資産形成の手段として非常に有効ですが、いくつかの注意点を事前に理解しておくことが重要です。以下に代表的なポイントをまとめます。

まず、保険の目的を明確にすることが大切です。死亡退職金の準備や、役員・従業員の福利厚生、事業保障など、法人保険には多様な用途があります。目的に応じて保険商品を選定しないと、思わぬリスクや損失につながる可能性があります。

次に、税務上の取り扱いには注意が必要です。保険料の損金算入が認められるケースもありますが、契約内容や保険種類によっては損金算入の割合が限定される場合があります。特に2019年2月以降、税制改正により定期保険や通増定期保険などの取扱いが厳格化されているため、最新の情報を税理士などの専門家と確認することが大切です。

また、保険の解約返戻金や契約期間に関する理解も重要です。中途解約した場合には返戻率が低く、資金が目減りする可能性があります。将来の資金計画と照らし合わせて、中長期的な視点で契約を検討することが求められます。さらに、保険契約者と受取人の設定も慎重に行う必要があります。契約者が法人、被保険者が役員、受取人が法人または遺族となる場合、それぞれの税務上の影響や法的責任についても確認が必要です。

法人保険は経営の安定化とリスクヘッジに貢献する一方で、制度や税務の理解を怠ると逆に企業に不利益を及ぼす可能性があります。導入を検討する際は、ファイナンシャルプランナーや税理士などの専門家と連携し、目的に合った選択を行うことが大切です。まずは現在の保険加入状況を確認するために、担当者にご相談ください。

(株)フィナンシャル・エージェンシー 徳島営業所
近藤 優



暑い日が続きますが、皆様体調を崩されていないでしょうか。私は、できる限りの運動と水分補給を心掛けて日々しのいでおります。あまりに暑いので、徳島の温暖化について調べてみました。徳島地方気象台の観測によると、年平均気温は100年あたり約1.5℃上昇しており、日本全体の平均（1.4℃/100年）よりもやや高く、世界平均（約0.77℃/100年）を大きく上回っています。特に今年の7月は梅雨明けも早く、猛暑日が続きました。観測データでは、春の上昇率が最も大きく冬の上昇率も高いため、暖冬傾向が顕著で、これが四季を感じにくくなっている原因ですね。

日々進む地球規模の温暖化を改善すべく、カーボンニュートラルに関する取り組みが世界各国で行われています。カーボンニュートラルとは、温室効果ガスの排出量と吸収量を差し引きゼロにすることで、化石燃料の使用などで排出されるCO₂を、再生可能エネルギーの導入や森林吸収などで相殺する仕組みです。日本は2050年までの実現を目指しており、中小企業においてもカーボンニュートラルに向けた活動が要求されるようになりました。

弊社のお客様においても、温室効果ガスの見える化、排出量削減、再生可能エネルギーによる事業運営、が求められています。大手企業との取引に際し、RE100（企業が事業活動で使用する電力を100%再生可能エネルギーで賄うこと）を求められるケースも出てきており、中小企業には関係ないと言っていない環境となってきました。いきなり実現は難しいため、早めの準備が必要です。弊社も取り組みを始めております。新しい取り組みですのでの的を射たアドバイスはできませんが、一緒にこの問題について考えることができればと思っています。



今月の欄外

雑学シリーズ

110

日本人が「生海苔」を消化できる特別な理由 2010年のフランスの研究で、日本人の腸内細菌に生海苔の成分（ポルフィラン多糖）を分解する酵素が見つかりました。これは、日本人が長年海苔を生食してきた歴史によるものとされています。そのため、日本人以外が生海苔を食べた場合、栄養を十分に吸収できず体外へ排出されます。健康への悪影響は少ないですが、消化不良を起こす可能性はあります。焼き海苔や味付け海苔は加熱により細胞壁が壊れるため、この酵素がなくても消化しやすく、日本人以外でも問題なく食べられます。世界中で食べられている寿司の海苔巻きが良い例です。